



## 自動車総連、第28期後半期の活動をスタート!!

# 第49回大会を開催

自動車総連は9月3日、自動車総連 View-well Square (東京) をメイン会場としての大会を開催した。

- 高倉会長挨拶 (要旨)
- 国政報告
- 報告承認事項
  - ◆ 一般経過報告
  - ◆ 第28期前半期決算報告
- 特別報告
  - ◆ あり方委員会中間答申
  - ◆ 第7次組織拡大中期計画
- 議事
  - ◆ 第1号議案: 第28期後半期予算 (案)



第49回大会は新型コロナウイルスへの感染ならびに拡大防止における自動車総連としての社会的責任、そして、参加者の安全最優先の観点にて、自動車総連View-well Square (ビューウェル スクエア) と12労連をWebシステムで繋ぐ「分散開催」として実施した。

永瀬中央執行委員 (三菱自動車ふそう労連) の司会で開幕し、高倉会長の挨拶に続いて顧問議員の国政報告が行われた。

報告承認事項の審議では、「第28期前半期運動の経過報告」、「2020年総合生活改善の取り組み総括」、「第28期前半期決算報告」が報告され承認された。

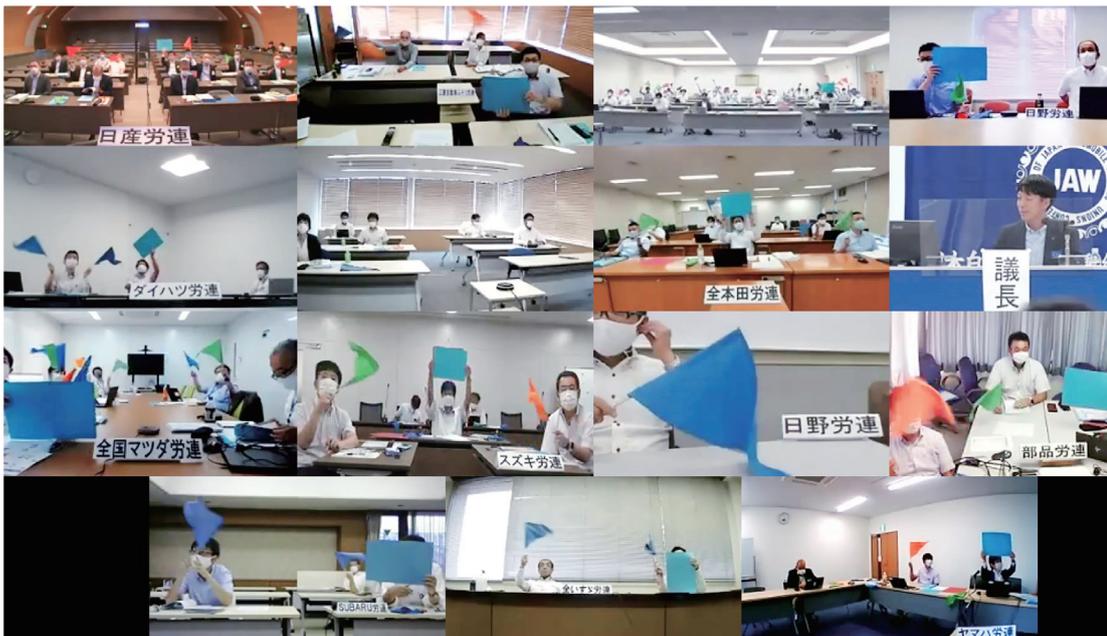
特別報告「あり方委員会 中間答申」、「第7次組織拡大中期計画」の後、議事の審議に入り「第28期後半期予算 (案)」が承認され、第49回大会は終了した。



司会・永瀬中央執行委員 (三菱自動車ふそう労連)



議長・川崎代議員 (三菱自動車ふそう労連)



新型コロナウイルス感染症への対応で12労連をWebシステムで繋ぎ開催





# 組合員・家族の安心・安定のため 新たな改革と創造に果敢に挑戦していく

## 労使のコミュニケーションを さらに深め議論していく

令和の時代に入り、米中新冷戦構造に代表される保護貿易主義の台頭、さらには、CASE・MaaSに代表される第4次産業革命・デジタル革命への対応によって取り巻く環境が急激に変化し始めている中、今回のコロナ禍の到来は、これまでの幾多の危機的状況や変革期を遥かに上回る事態が生じており、産業・企業の構造・商品戦略や消費者の購買ニーズ、さらには生活スタイルや働き方など、あらゆる分野に多大な影響を及ぼしています。

すそ野の広い自動車産業が、今後とも日本で競争力を磨き続け、雇用を維持し、モノづくりを続けていくためには、変化や危機を敏感に察知し、今起こりつつある変化を後戻りさせず、あらゆる変革に果敢に挑戦していかなければなりません。

7月には自工会および部工会との労使会議をWebにて開催し、自動車業界が復興のけん引役を担い、日本のモノづくりと雇用を守り抜いていくことについて、産業労使としての意思合わせを行いました。

すでにモノづくりを守り、サプライヤーを支援する「助け合いプログラム」等、業界一丸となって迅速に対応する施策も実施されており、当面は危機を乗り切るための財政支援や需要喚起策などの要請を行いながら、アフターコロナの時代における産業ビジョン・求められる人材・働き方や、それを支える制度・処遇のあり方などについても、労使のコミュニケーションをさらに深めながら論議していく必要があり、自動車総連としてもまずは雇用と生活を守っていくことを基本に、政府・行政・経営者団体との連携を強化していきたいと思っております。

## コロナ禍で組織力を高める 工夫が必要

今後、新型コロナウイルスと向き合っていく中で、ニューノーマル（新常态）という、これまで当たり前であったことが、これから当たり前でなくなり、我々労働組合の活動や社会のあり方も大きく変わっていくことが想定されます。

感染予防に有効な手段は、3密（密閉・密集・密接）の回避とソーシャルディスタンス（社会的距離）の確保ですが、人と「会わない・近づかない・向き合わない・話さない」ことなどによる様々な弊害も懸念されます。

他の人と接触することで喜びや悲しみ、感動や共感を分かち合えることは、人とのつながりや交わりによって生み出されるものであり、寛容性を失った組織や社会は、持続可能性を失ってしまう懸念もあります。

ウイルスとの共生を前提に、Webなどのオンラインでの活動と、面着での活動をいかに両立させ相乗効果を上げていくのか、また、多様化する個々人の価値観やニーズがある中で、組合員の総意としての意見をいかにまとめていくのかなど、労働組合としての団結力・組織力を高め、これからのやり方に固執することなく、危機をチャンスと捉え、一人一人の行動を見つめ直し創り出していく、新しい価値観のもとでの構想力が問われています。

また自動車総連は2022年に結成50周年を迎えます。産別組織としてのあるべき姿の実現に向けた方向性について本大会で中間報告を行いました。自動車総連の特徴である産別と労連との一体的運営をより効果的・効率的に行い、自動車総連にしかで

きない、しなければならない活動により特化した「道しるべ」にしていきたいと思っております。

## 政策制度の取り組みは 顧問議員・対外組織と連携し対応

日本が直面している超少子高齢化・生産年齢人口の減少問題や社会保障制度・地方分権改革など、持続可能な社会の再構築に向けた課題が山積している中、コロナ禍が直撃し、政治の果たすべき役割は、従来にも増して非常に重要になっています。

今回、国民民主党と立憲民主党が双方解党したうえで新党を設立する動きがありますが、産別で支援する政党が異なる状況を解消し、連合として一枚岩で一体感を持って取り組むためにも大同団結することには期待しますが、単なる選挙目当ての数合わせや大義のない合流では、これまでの分裂の歴史を繰り返すだけであり、新党をつくるなら、共通の理念・政策を基本に、組合員・国民の期待や信頼感が醸成されなければなりません。残念ながら今回の合流の動きでは、我々が目指す状況には至っていないとの判断から、組織内議員とも連携のうえ、組織内議員が合流新党に参加することを断念しました。

今後、合流新党との連携のあり方や国政選挙の取り組みなどについては、顧問議員や連合・友誼産別との連携を深めながら対応していきたいと思っております。

組合員・家族が安心・安定を実感して働き、生活できる環境を作り出していくために、時代認識に立った明確なビジョンを掲げながら、新たな試み、改革と創造に果敢に挑戦をしていきたいと思っております。

共に頑張りましょう。

## 一般経過報告

「第28期前半期の活動全般について」、「2020年総合生活改善の取り組み総括」を報告し、承認された。



金子 事務局長



森口 副事務局長

## 第28期前半期決算報告

「第28期前半期決算報告」について報告し、全会一致で承認された。



粕谷 企画総務局局長



乾 会計監査

## 特別報告

### ●あり方委員会中間答申

「あり方委員会中間答申」について報告し、承認された。



金子 事務局長

### ●第7次組織拡大中期計画

「第7次組織拡大中期計画」について報告し、承認された。



森田 組織局局長

## 第1号議案 第28期後半期予算（案）

第28期後半期予算（案）について提案され、全会一致で承認された。



粕谷 企画総務局局長

## あり方委員会中間答申 「目指すべき方向性」の実現に向け議論を深める

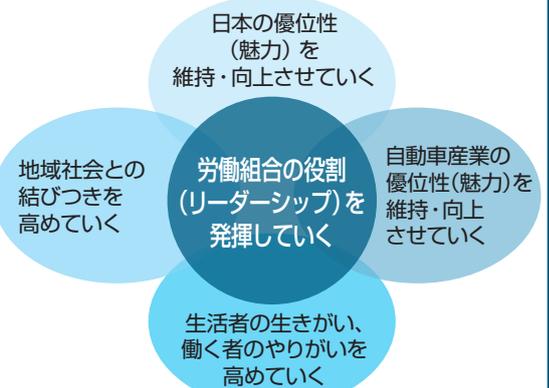
2022年10月に迎える50周年を節目として、今後の自動車総連はいかにあるべきかについて、あり方委員会を立ち上げ、第50回大会（2021年9月）にて答申します。

本大会では中間答申として、取り巻く環境認識・課題抽出のもと、自動車総連のあるべき姿の実現に向けた5つの「目指すべき方向性」を確認しました。

「目指すべき方向性」は個々に独立したものではなく、いずれにも有機的な構成となっていることから、実現に向けては自動車総連と各労連による一体的運用を軸としつつ、国や地域、関係組織や経営団体などとの連携を図りながら進めていくことが重要です。

後半期では、実現に向けた新たな方策などについて議論を深めていきます。

### あり方委員会が示す「目指すべき方向性」



## 自動車総連 ホームページ リニューアルしました

2020年4月に自動車総連のホームページをリニューアルしました。スマートフォンからでも見やすいデザインになりました。タイムリーな更新に努めてまいりますので、ぜひチェックしてみてください！

URL:<https://www.jaw.or.jp/>



# 「ゆとり・豊かさ・社会的公正」を 実感できる政策実現へ今後も全力を尽くす



三顧議員としての  
国政報告



## 政策実現に向けて、政治への参加を

自動車総連組織内議員 衆議院議員 古本 伸一郎

ご案内のとおり安倍総理が辞任を決め、風雲急を告げています。

こうした状況のときに国民民主党が分裂、解党するというに至り、私自身5年間で4回目の党の変更になります。

私は今回、立憲民主党を中心とする合流新党には、参加しないということを決めました。ここは一旦ひと呼吸置いていずれの党に属するのが一番職

場の皆さんが喜んでいただける、より私たちが政策実現できるかを見極めるために、暫時、無所属で活動する道を選びたいと思います。

むしろ職場の皆さんと所属政党かくあるべしということを職場討議をしながら、その後いずれかの党に属していくという判断をしていきたいと思います。

皆さんには、政策実現をしていくため、これからも政治に参加していただくようお願いいたします。



## どういう道をとるか議論し判断していく

自動車総連組織内議員 参議院議員 磯崎 哲史

今回の豪雨について、被災された皆さんに心からお見舞いを申し上げます。

そしてこの半年間コロナ禍においても、国民民主党の黨員サポーター募集の活動にお力添えをいただき、感謝申し上げますと同時に、ご協力をいただいた直後、国民民主党は立憲民主党との合流に向け、解散することになり、ご心配をおかけしている点についてお詫び申し上げます。大きな影響を与えているということを自覚し、間違いない判断をしていき

たいと思います。

判断をするうえでの思いとしては、多くの意見を聞き、判断をしていく中道路線です。2年前に労働基準法の改正案があり、法案の採決には反対しましたが、問題点を議論したうえで付帯決議をつけることにより、中道路線の考え方が再現できたのではないかと思います。

これから先、どういう道をとるのか、引き続き議論をしたうえで判断をしていく、その思いをご理解いただきたいと思っています。



## 政策を実現するため今後の立場を判断していきたい

自動車総連組織内議員 参議院議員 浜口 誠

自動車総連の皆さんの日頃のご支援に感謝申し上げます。

今年も、九州はじめ全国で豪雨災害が発生しておりますが、被災地の復旧・復興を全力で支援してまいります。

野党再編については、自動車産業政策等の政策実現を真ん中に考え、今後の立ち位置を考えていきます。

私たち3人が中心に活動する自動車議連では、ア

フターコロナの自動車産業政策として、働き方や地方回帰等の変化を踏まえ、通勤で使う車に係る負担（車両購入費、ガソリン代、駐車場代等）を経費化し所得控除に反映、車を複数台数保有する世帯における自動車税、軽自動車税等の2台目半減、3台目以降免除を政策提言しました。こうした政策を実現するためにどのような立場で取り組むべきか、自動車総連の皆さんとも協議し、今後判断していきたいと思っています。